

長野県上伊那農業高等学校

〒399-4594 長野県上伊那郡南箕輪村9110 ☎0265-72-5281

活動団体 コミュニティデザイン科グローバルコース 活動人数 38人 主な活動時間 授業の一環として/部活動として

伊那谷の昆虫食文化伝承プロジェクト

きっかけ

長野県南部に位置する伊那谷地区は、トビケラ、カワゲラなどの水生昆虫の幼虫を食す昆虫食文化が有名。水生昆虫は、天竜川と呼ばれる「ザーザー」流れる川の瀬に住み着いていることからざざ虫という愛称で親しまれている。しかし近年、大型台風による土砂の流出や護岸工事によって天竜川環境が変化し、水生昆虫が減少しているほか、ざざ虫漁師の高齢化も進み、昆虫食文化の存続が危ぶまれる事態となっている。上伊那農業高校のコミュニティデザイン科グローバルコースでは、地元の伝統文化を未来に受け継ごうと活動をスタートした。



ざざ虫漁の様子。石を掻いて捕獲することで、河川の自浄にもつながる。

活動内容

生徒たちは、昆虫食文化を多くの人に知ってもらうため、ざざ虫を使った商品を開発することに。昆虫は、低脂肪かつ高タンパクであり、家畜に比べて生産効率が高いことから、地球温暖化対策にもなると考えた。ざざ虫漁師や昆虫食を専門とする企業の協力のもと、消費者の抵抗感を減らすためざざ虫をふりかけに加工。味の選定やパッケージデザインも生徒自らが「ZAZATEINふりかけ」と命名した。



商品開発では何度も話し合いを行った。味は長野県で親しまれる「くるみだれ」に。

また、商品開発にあたって生徒らが意識していたのは、「生態調査と保護が必要不可欠だ」ということ。そこで生息地の石の大きさや土壌を調査し、水槽内にざざ虫に適した環境を再現。毎日欠かさずに観察し、養殖に取り組んだ。

成果

開発した商品は、地元雑貨店で販売したところ、完売するほど好評。売上金の一部を、ざざ虫漁業の存続のため天竜川漁業協同組合に寄付した。

また、ざざ虫の養殖にも見事成功。前年7月に実験を開始したところ、翌年6月に孵化が頻繁に見られたというデータをもとに、今後は生育サイクルの解明に取り組んでいく。目指すのは、伊那谷を昆虫食のメッカにすることだ。

活動エピソード

商品開発のためには、ざざ虫を大量に捕まえる必要があったが、天候などによって川の状態が優れず生徒のみでは収穫量は目標に及ばなかった。ざざ虫漁師に協力してもらったことで、十分な量のざざ虫を捕ることができ、商品開発をスタートすることができた。

今後の展望

ZAZATEINふりかけを、かやくやスープに活用したカップヌードルをはじめ、新たな商品の開発に取り組んでいく。地元以外にもざざ虫を広げるため、ざざ虫漁体験などの新たな観光の形も模索中だ。